

生活 気付きの質を高める学習活動の充実

生活科では、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、直接体験で得た気付きを表現することによって、気付きの質を高めながら、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成されていきます。気付きの質を高めるためには、体験活動と表現活動が繰り返される学習過程を意識するとともに、教師が適切な言葉掛けや働き掛けをすることが大切です。

「身近な生活に関わる見方・考え方」とは

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすることであると考えられる。

生活科でいう「気付き」とは

対象に対する一人一人の認識であり、児童の主體的な活動によって生まれるもの（知的な側面だけではなく情意的な側面も含む）。

気付きの質の高まり（深い学び）とは

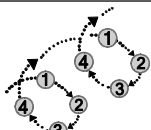
無自覚だった気付きが自覚されたり、一人一人に生まれた個別の気付きが関連付けられたり、対象のみならず自分自身についての気付きが生まれたりすること。

体験活動と表現活動が繰り返される学習過程とは

一連の学習活動の「まとめり」としての単元の中で、以下の①～④の学習過程を基本にして、体験活動と表現活動が繰り返されるようにすること。

- ①：思いや願いをもつ
- ②：活動や体験をする
- ③：感じる・考える
- ④：表現する・行為する
(伝え合う・振り返る)

※学習過程は、①～④の順序が入れ替わったり複数のプロセスが一体化して同時に行われたりする場合もあります。



指導事例 内容(7) 動植物の飼育・栽培（活動の一部）

※吹き出しの中の下線部は、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、気付きの質を高めている児童の姿

カブトムシの幼虫がどれくらい大きくなったか調べたいな。



そうだね、幼虫の大きさを調べてみようよ。

体験活動（幼虫の大きさを調べる、飼育ケースの土を取り換える等）の実施

前と比べると幼虫が大きくなっているよ。



そうだね、幼虫は大きく元気に育っているね。

あれ、飼育ケースの土が前より少ないぞ。どうしてだろう。



土の上に、豆みたいなのがあるぞ。これは何だろう。



なるほど、確かに飼育ケースの土が少なくなっていますね。どうして土が減ったのでしょうか。土の上にあるのは何だと思いますか。

カブトムシの幼虫が土を食べているのかな。だから土が減ったのかな。調べてみたいな。



土の上の豆みたいなのは、土とは違うと思うよ。幼虫のふんじゃないのかな。



たくさんの予想が出されましたね。幼虫の食べ物やふんについてどのようにして調べたいですか。

図鑑で調べると詳しく分かりそうだな。



カブトムシの育て方に詳しい〇〇さんに話を聞きたいな。

資質・能力の育成

児童の気付きを、教師が尋ね返したり問い掛けたり共感したりするなど言葉掛けや働き掛けをして、気付きを全員で共有し、気付いたことを基に考え、新たな気付きを生み出し、気付きの質を高めることが大切です。



上記のような体験活動と表現活動が連続的・発展的に繰り返されることにより、育成を目指す資質・能力として期待される児童の姿が繰り返し表れ、積み重なって確かなものとなります。